

伝える

ード受賞

た」などの評価を得た。

林さんは「地方公務員アワード」に選んでいただき光栄。

入庁12年目になるが、北本のために自分が良いと思つことは前例がなくても可能な限りやるように心掛けている。信頼して自由にやらせてくれる市の懐の広さが最もすごいと感じている」と感謝した。

財政を実写マンガ調で伝え

る工夫は斬新なものだった。2016年11月号の広報で、当時財政課の新井亮平さん(30)「現在市民経済部産業観光課商工労政・観光担当」を「財政状況伝えるマン」に抜てき。11月号は全国広報コンクールで入賞を獲得している。伝えるマンは6年目に入ったいまも継続している。

林さんは、ふるさと納税の担当としても活躍。寄付額により市内にあるオーダースーツ銀座英国屋のオーダースーツ仕立て補助券がもらえるシステムで底上げし、市の2020年度ふるさと納税寄付額県内1位に躍進させている。

間野さん 一席

全国手もみ茶品評会 人間市は産地賞16連覇

7月に静岡県島田市で行われた「第29回全国手もみ茶品評会」で一等一席(農林水産大臣賞)を獲得した人間市の間野隆司さん(59)が23日、人間市役所を訪れ杉島理一郎市長に受賞を報告した。また上位5人の成績で争われる産地賞も人間市が16年連続で受賞したことも併せて報告された。

間野さんは人間市手揉保存会会長を務め、これまで29回全ての品評会に出品。一等一席の受賞は21年ぶりの2回目と

なった。今回の品評会には静岡県など15都府県から103点が出品され、お茶の形や色、香りなど五つの項目で審査された。間野さんが出品した手もみ茶は全ての項目で高評価を受け、満点の200点を獲得した。

今年2〜3月の気候が温かく生育も良好でいい葉が取れたという。「出来上がった時の味がいつもより良いと感じた」と間野さんは話し、「若手も頑張っている中、一等一

全国手もみ茶品評会で一等一席を獲得し、杉島理一郎市長(右手前)を訪ねた間野隆司さん(23日午前、人間市役所)



席は永遠に取れないだろうと思つていたが続けていくことの大事さに気付かされた」と受賞を喜んだ。

報告を受けた杉島市長は「狭山茶の主産地である市にとって手もみの技術が根付いていて、後進の育成もしっかりと進んでいることは市の誇り。これからも皆さんに伝えていきたい」と話していた。

(丸谷卓)

給食の地場産 有機化を要望

市民団体が小川町長に

小川町の学校給食の地場産化・有機化を考える市民団体「小川町の学校給食を考える会」(高橋優子代表)はこのほど、松本恒夫町長に「学校給食」に関する要望書を手渡した。

同会によると、小川町の学校給食センターは、40年以上